

## 平成28年度 京都府がん対策推進府民会議 たばこ対策部会 開催結果

### 1 日 時

平成29年2月2日（木曜） 14時～15時50分

### 2 場 所

京都ガーデンパレス 橘の間

### 3 出席者（順不同・敬称略）

渡邊 能行 京都府立医科大学大学院教授（部会長）

畑 雅之 京都府医師会理事

岸本 知弘 京都府歯科医師会理事

近田 厚子 京都府薬剤師会副会長

森 忠昭 特定非営利活動法人京都禁煙推進研究会理事

古澤 稔正 京都労働局労働基準部健康安全課主任地方労働衛生専門官

澤井 雄介 京都市保健福祉局保健衛生推進室保健医療課健康増進係長

吉田 千春 京丹後市健康推進課課長補佐

前田 昌一 与謝野町保健課長

木村 勝 京都府中学校長会事務局長

八木 浩 京都府飲食業生活衛生同業組合理事長

〔※京都府商工会連合会、京都府商工会議所連合会、京都府生活衛生営業指導センターは欠席〕  
・傍聴者1名

## 概 要

### 1 報告協議事項

#### ① 受動喫煙防止対策の取組状況及び各分野の取組みについて

京都府がん対策推進計画に基き、事務局から今年度のたばこ対策の取組状況について、各分野毎の活動状況を説明するとともに、各参画団体の取組の紹介及び今後の取組等について、意見交換を行った

- ・防煙（未成年者の喫煙防止）について
- ・禁煙支援について
- ・受動喫煙防止対策について

#### ② 国の受動喫煙防止対策について

2020年の東京オリンピック・パラリンピックなどに向け、受動喫煙防止対策の強化を進める国の動きについて、事務局から説明するとともに意見交換を行った。

- ・国の受動喫煙防止対策について（たたき台）

## 2 協議事項、主な意見等

### [参画団体の取組説明]

#### (京都府薬剤師会)

- ・薬局では日常的に禁煙支援をしている。
- ・年2回程度禁煙指導ができる薬局を増やすための研修会を実施している。
- ・学校薬剤師が各学校に出向き、薬物乱用防止授業以外に防煙授業を実施する取組をしている。

#### (京都禁煙推進研究会)

- ・小・中・高等学校、専門学校での防煙教育の実施及び大学で健康フォーラムの手伝いをしている。(京都府下の各学校での実施状況について報告)
- ・卒煙サポーター養成講座を2月19日京都テルサにて開催予定。
- ・世界禁煙デーに合わせてイベント等(高台寺、京都タワー)を実施。
- ・その他、高齢者施設での喫煙、防煙状況等のアンケート調査を実施。
- ・医師会、歯科医師会などの展示イベントで禁煙コーナーを出展している。

#### (京都府中学校長会)

- ・中学校では、学年に応じ、1年生は防煙、2年生は飲酒防止、3年生は薬物乱用防止教育を実施している。
- ・防煙教育は1時間の場合は、色々な団体にお世話になって講演だけでなく、映像や模型を使用していただいている。その後、感想を聴くなどしている。
- ・2時間の場合、前半は京都禁煙推進会の方の講話、後半は4つのコーナーでの体験学習を実施している。生徒は学校で受けた指導を家庭での分煙、禁煙へ生かしている。
- ・府立医科大学の禁煙キャラバンチームにも来ていただいて体験学習を実施している他「生命のがん教育」でもたばこの害について触れてもらっている。

#### (部会長)

- ・中学校では、たばこ、酒、薬物と総合的に実施されている。これらは、大学までにやっておかないといけない。京都府20代の喫煙率が低いのは防煙教育の成果ではないか。特定健診データを市町村毎に出したものがあるので共有してはどうか。  
若い人は喫煙率が低い。全体として良い方向になっている。

#### (京丹後市)

- ・市が実施した年代別のアンケートでは、喫煙率は男性30代が42.9%、40代が43.8%とかなり高い。50代が34.7%、60代が30.0%、70代が11.1%と高齢になると体調不良も心配され、止める人が多い。女性の30代が12.5%と高いのが問題
- ・禁煙支援については、喫煙率が10年前20.5%、5年前13.5%と効果があったが、今回の調査では14.9%と増えてしまった。
- ・タバコを吸っている人に止める意思があるかを確認したら、5年前より2割少なくなっている。禁煙指導は個別指導が中心で集団の指導は行っていないが、集団で禁煙チャレンジ教室を実施している市町村に課題を聞くと

効果はあるが、人が集まらない問題があるようだ。もっと広く啓発する必要があるのではと感じている。

[①取組について、質疑応答]

(歯科医師会)

- ・(京丹後市の方は、住民の方と接していて) 現在、喫煙中の方はどのように思っておられると感じられるか? 喫煙禁煙に関して「何がいけないのか」という感じなのか?

(京丹後市)

- ・50~60代の喫煙者でいろんな指導を受けても、なお吸っている人へは、個別指導ではそれ以上は言わない。
- ・30~40代は昼間は(仕事で)なかなかアプローチできない。今は元気で若くストレスもあるのでたばこを吸って解消したいという思いもあると思う。
- ・孫に「たばこくさい」と言われてピタッと止めた人もいる。

(薬剤師会)

- ・5~10年前は禁煙指導を進めると、しぶしぶでも止めると言っていた人もいるが、最近は受け入れてもらいにくい。機会はあるのでその気になったら来てほしいとは言うが、聞き飽きたという人もいる。禁煙に関しては難しい人が残っているのではというのが実感である。

(部会長)

- ・何らかの大きなきっかけがあれば、禁煙できる可能性はあるのではと思う。いつでも禁煙を始められる機会があることを知っておいてもらうのも意味がある。

(NPO)

- ・いい歯の日のイベントで禁煙相談コーナーを設置したが、禁煙に関しては止めたいのに止められない、止める気はないという人が多い。一度見学に来ていただくことをお薦めする。

(部会長)

- ・健康不安が出たときは一つのチャンスかもしれない。たばこは、がんだけでなく健康に広く影響していることを気がついてもらえるように話していくことや若いころからの教育が重要だと思う。

[②国の受動喫煙防止対策強化について、質疑応答]

(京都禁煙推進研究会)

- ・喫煙室の作り方(設計)に問題がある。産業医科大学の先生が理想的な喫煙室の作り方という冊子を作成しているので参考にしてほしい。その先生が京都のホテルを見学し唯一喫煙室として評価したホテルでは、

喫煙者の出入りがあっても煙が漏れない扉になっていて、強力な排煙設備がある。

- ・タバコの煙はPM2.5より小さい粒子であるため、空気清浄機を置くだけでは意味が無い。誤解している人が多い。ほとんどの喫煙室には課題ある。

(部会長)

- ・喫煙室の基準については、国の委員会でも引き続き検討事項になっている。

(医師会)

- ・原則は喫煙場所設置可能か？

(事務局)

- ・基本的は禁煙。技術的基準にあった喫煙場所を置けなければ全面禁煙。

(医師会)

- ・表記がわかりにくいのではないか。この場合は、原則建物内禁煙で、基準を満たせば喫煙場所設置も認めるといった表記に変えてもらわなければならない。法律が施行されてから、もし守らなかった場合はどうなるのか？

(労働局)

- ・労働局としては、事業者に助成金を出して喫煙室を造ることで建物内喫煙可(分煙)としている。ただし現状の喫煙室には課題が多い。
- ・27年度全国の助成件数は513件、28年度の申請状況は約400件。京都府内では28年度は2件(娯楽業、製造業)交付決定。

(医師会)

- ・既存の喫煙室では、この基準に合わないのではないか？喫煙室をつくりなおす必要があるのか？

(労働局)

- ・まだ具体的(施行等)にはわかっていない。

(京都府飲食業生活衛生同業組合)

- ・個人的にはたばこは数年前に止めている。業界には居酒屋や飲食店等小さいところが多い。広さのランクをつけて規制をかけてほしい。小さいところも大きいところもまとめて規制をかけると、飲食店では商売が成立しないケースがある。

(部会長)

- ・業界として、苦慮されていることは理解できる。例えば、商店街でまとめて喫煙場所をつくるなど工夫する必要もでてくる。
- ・京都府の健康長寿を進めるためにも実効性のある政策をすすめていきたい。